

「6.11 原発いらん！関西行動」にお集まりの皆さん

福島では 30 万人の子どもたちが、原発の被ばく労働者と同じ環境の中で、今現在、毎日毎日被ばくし続けています。既に 1 万人が福島を脱出しましたが、まだほとんどの子どもたちは放置されたままです。

これは政府による子どもへの虐待です。いえ、殺人といっても良いものです。

5 月 23 日、私たちは文部科学省に、子供たちの被ばく低減化のための措置を直ちに執ることを求め、バス 2 台で行きました。全国から駆けつけていただいた仲間たちや、国会議員と共に、20 ミリシーベルト基準の撤回と、疎開と除染、防護策をもとめました。27 日には、大臣自らが記者会見し、20 ミリシーベルトの棚上げと、一部の学校の校庭除染を約束しました。

私たち福島のプロたちがつながり合い、全国の仲間たちとつながり合って、国を動かし始めた瞬間でした。

けれどもまだ、福島の子どもたちは被ばくし続けています。

「6.11 原発いらん！関西行動」にお集まりの皆さん

子どもたちは、原発事故に対して何も責任はありません。私たちには守る義務があります。

一日も早く、疎開を進めなければなりません。学童疎開を国民運動とするため、力を貸してください。力を合わせましょう。

私たちは決してあきらめません。

子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク
代表 中手聖一